INDUSTRIAL CO .,LTD

エコアクション21

環境経営レポート

（対象期間:2022 年 6 月 1 日～2023 年 5 月 31 日）

①組織の概要

②対象範囲

③環境経営方針

④環境経営目標

⑤環境経営計画

⑥環境経営計画に基づき実施した取組内容

⑦環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

⑧環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、
訴訟等の有無

⑨代表者による全体評価と見直しの結果

発行:2023 年 8 月 31 日

改訂:2024 年 4 月 10 日

星工業株式会社

① 組織の概要

●事業者名及び代表者氏名

・商　号:　星工業株式会社
・代表者:　代表取締役社長　田中裕二

●所在地

・認証・登録範囲:本社　〒252-0245　神奈川県相模原市中央区田名塩田 1-13-1

●事業活動の内容（ ② 認証・登録範囲 ）

・製薬関係自動機械の設計・開発、製造、販売
・プラスチック押出成形装置の設計・開発、製造、販売
・その他各種自動化・省力化機械の設計・開発、製造、販売
・振動試験装置の製造

●事業の規模

・資 本 金:　3,000 万円
・設　　立:　昭和 42 年 7 月 31 日（創業:昭和 23 年 6 月 23 日）
・事業年度:　6 月 1 日～5 月 31 日
・売 上 高:　429 百万円
・社 員 数:　25 名
・延床面積:　1,443 ㎡

●担当連絡先

・環境管理責任者:　総務セクションマネージャー　志村昌紀
・連絡先:　TEL 042－777－3366　FAX 042－777－3677
E-mail　m_shimura@hoshi-ind.co.jp
http://www.hoshi-ind.co.jp

③ 環境経営方針

星工業株式会社の環境経営方針

基本理念

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、当社の事業活動全てにおいて、継続的な環境負荷低減に配慮して行動する。

基本方針

1　事業活動における環境負荷を把握し、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水資源使用量の削減、化学物質使用量の削減を図り、環境負荷の低減をする。

2　自社の製品開発に際しては、環境配慮の促進と省エネルギーを追求する。

3　環境保全に関する法規制、条例を順守し、一層の環境保全に取り組む。

4　環境教育を実施し、全社員の環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも周知し、理解と協力を要請する。

5　定期的に環境経営システムを見直すことにより、経営における課題とチャンスを踏まえ、継続的改善・向上を図る。

2018 年 6 月 1 日
2018 年 9 月 3 日改

星工業株式会社

代表取締役　田中裕二

④環境負荷と環境経営目標

1. 年度は当年の6月から翌年5月迄です。
2. 活動期間は2019年6月から2023年5月までの4年間です。
3. 各管理項目についての基準値は、2014年度（2014年6月から2015年5月まで）の実績値です。
4. 基準年の原単位は469M円です。
5. 基準値に対しての目標値等は下記表に記載します。
6. 産業廃棄物排出量削減のみ、直近3年間の実績を基準値とし、変動の大きい有価物の金属屑を含まない指標として再スタートする。
   （原単位は2016年度実績値、総量は2018年度実績値を基準値とし、どちらか一方の目標が達成出来れば目標の達成とする）
7. 化学物質使用量削減については、検討した結果、使用量を減らし製品の品質を下げる事が出来ない為、結果の記録とする。

管理項目			※基準値（2014年度実績）	2019年（通年） 2019年6月～2020年5月		2020年（通年） 2020年6月～2021年5月		2021年（通年） 2021年6月～2022年5月		2022年（通年） 2022年6月～2023年5月	
①二酸化炭素排出量削減	a.購入電力の削減　排出係数（東電2018年度値）：0.455	kWh/M円	280.0	-5.0%	266.0	-6.0%	263.2	-7.0%	260.4	-8.0%	257.6
	b.ガソリン使用車の燃費向上	Km/L	10.22	1.5%	10.37	2.0%	10.42	2.5%	10.48	3.0%	10.53
	c.軽油使用車の燃費向上	Km/L	7.59	1.5%	7.70	2.0%	7.74	2.5%	7.78	3.0%	7.82
	CO2排出実績（絶対値）（記録のみ）	Kg-CO2	85,399	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****
	CO2排出量の削減（売上高原単位値）	Kg-CO2/M円	182.1	-5.0%	173.0	-6.0%	171.2	-7.0%	169.4	-8.0%	167.5
②廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	kg/M円	7.51	-5.0%	7.13	-6.0%	7.06	-7.0%	6.98	-8.0%	6.91
	産業廃棄物の削減　※基準値（有価物を除く2016年度実績）原単位にて	kg/M円	4.97	現状維持	4.97	現状維持	4.97	現状維持	4.97	現状維持	4.97
	産業廃棄物の削減　※基準値（有価物を除く2018年度実績）総量にて	kg	2,900	現状維持	2,900	現状維持	2,900	現状維持	2,900	現状維持	2,900
③水使用量削減	水使用量の削減	m3/M円	0.659	現状維持	0.659	現状維持	0.659	現状維持	0.659	現状維持	0.659
④化学物質使用量削減	PRTR法対象化学物質の使用量削減（結果記録のみ）	Kg/M円	0.881	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****
⑤環境配慮の促進	自社製品開発時の省ｴﾈﾙｷﾞｰ・省資源ｱｲﾃﾞｱの具体化	設計図面変更件数	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月
	環境美化活動の実施 【９回/年＝実施回数/計画回数】	回数	実施回数/計画回数	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回

⑤⑥⑦ 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

達成状況の見方 ○:目標達成、 ×:目標未達成

原単位は429M円。

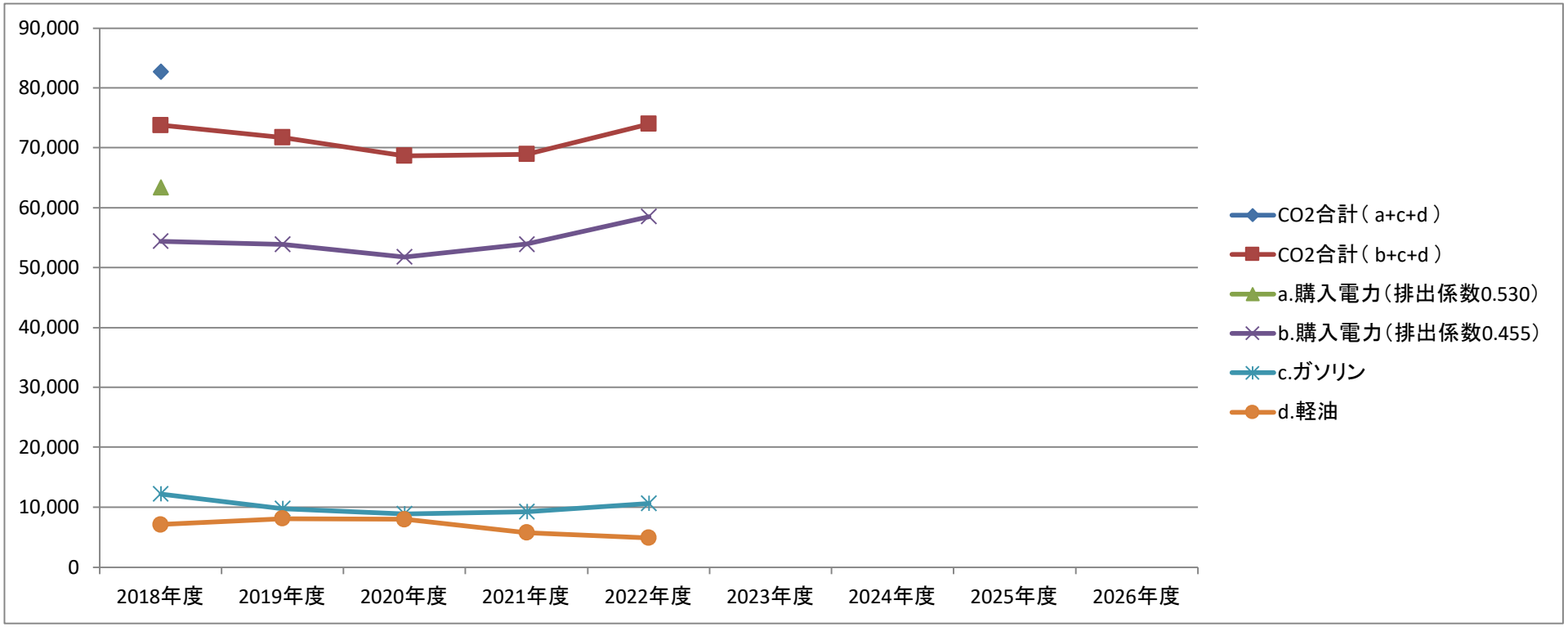
※1:年度目標の削減率及び向上率は対基準値に対しての数値。

主要な環境活動計画の内容			取組結果の評価(2022年6月1日～2023年5月31日)			
			年度目標 **※1**	年度実績	達成状況	実施状況と次年度の計画
①二酸化炭素排出量削減	a.購入電力の削減 排出係数 0.455	必要の無い電気の消灯。 エアコン設定温度適正化。 工場用ｴｱｺﾝの3台同時起動を避ける(最大電力に注意する コンプレッサーの効率UP。(3ヶ月に1回ｴｱ漏れﾁｪｯｸ)	8%削減 257.6kWh/M円	299.8kWh/M円	×	・2011.7.3 デマンドメーター設置済。 ・2012.7.8 水銀灯・蛍光灯をLED照明へ更新済。 ・2014.8.17 省エネタイプエアコンへ更新済。 新型ｺﾛﾅ対策で換気しながらｴｱｺﾝを使用した為、使用量増加。
	b.ガソリン使用車の燃費向上	燃費向上運転の励行。 「環境にやさしい運転エコドライブ」の冊子を車内に配置。 車両毎の燃費把握。 経済的に可能な範囲で省エネタイプの車両に変更。	3.0%向上 10.53Km/L	13.39Km/L	○	日産ﾉｰﾄe powerの活躍で目標達成。
	c.軽油使用車の燃費向上		3.0%向上 7.82Km/L	8.65Km/L	○	次年度も引続き燃費向上に努める。
	二酸化炭素 排出量実績		結果記録	74,160kg-CO2	**	結果記録のみ。
	二酸化炭素 排出量の削減		8%削減 167.5kg-CO2/M円	172.9kg-CO2/M円	×	朝礼等で不要不急の残業を抑制し、使用電力量が多い工場エアコンの使用基準を再度周知徹底する。
②廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ、新聞紙・包装紙、ｶﾀﾛｸﾞ・雑誌、 紙(ｺﾋﾟｰ用紙・感光紙)等の排出量削減。	8%削減 6.91 kg/M円	3.11kg/M円	○	計画通りに削減が出来た。 次年度も引続き削減に努める。
	産業廃棄物の削減	油性廃油、水溶性廃油排出量の削減。 木くず、廃プラ、繊維くず排出量の削減。 協力会社が持ち込んだ廃棄物は持ち帰らせる。	現状維持 4.97kg/M円 または 総量2,900kg	4.10kg/M円 総量1,740kg	○	通常の生産活動で排出される廃棄物量の削減に努めた。 原単位と総量にて目標管理。総量にて目標達成。 次年度も引続き削減に努める。
③排水量削減	水使用量の削減	節水呼びかけ(節水シール貼付)継続。 トイレタンク内節水用PETボトル投入済(2ヶ所)継続。	現状維持 0.659m3/M円	0.696m3/M円	×	節水シールが剥がれていないか、各箇所の確認をした。 売上減少による原単位での数値管理に無理がある為、次年度は総量管理に変更
④化学物質使用量削減	PRTR法対象化学物質の使用量削減	使用量、保管状況、SDSの確認。作業手順変更で削減。	結果記録	1.217kg/M円	**	使用量を減らし製品の品質を下げる事が出来ない為、今後も使用量に配慮しながら、結果の記録のみとする。
⑤環境配慮の促進	自社製品開発時の省ｴﾈﾙｷﾞｰ・ 省資源ｱｲﾃﾞｱの具体化	設計図面の二重ﾁｪｯｸを実施し省ｴﾈﾙｷﾞｰ・省資源化。 可能な限り部品点数を減らして余計な部品を製作しない。 最低限の加工で余計な製作工程(切削量等)を減らす。 可能な限り動力(ﾓｰﾀｰ等)使用数を減らして省エネ化。	現状維持 設計図面の変更 (3件/6ヶ月) 6件/12ヶ月	現状維持 設計図面の変更 (3件/6ヶ月) 6件/12ヶ月	○	技術的なﾉｳﾊｳもあるので内容の公開は出来ないが、 年間で6件の省エネ設計を実施した。 次年度も引続き環境配慮をした設計を心掛ける。
	環境美化活動の実施	敷地及び周辺の環境美化活動実施。(計画月第三金曜日	実施回数/計画回数	8回/8回	○	悪天候の日以外は100%実施する事が出来た。次年度も引続き実施する。

※その他:大地震を想定した緊急事態訓練を実施した。

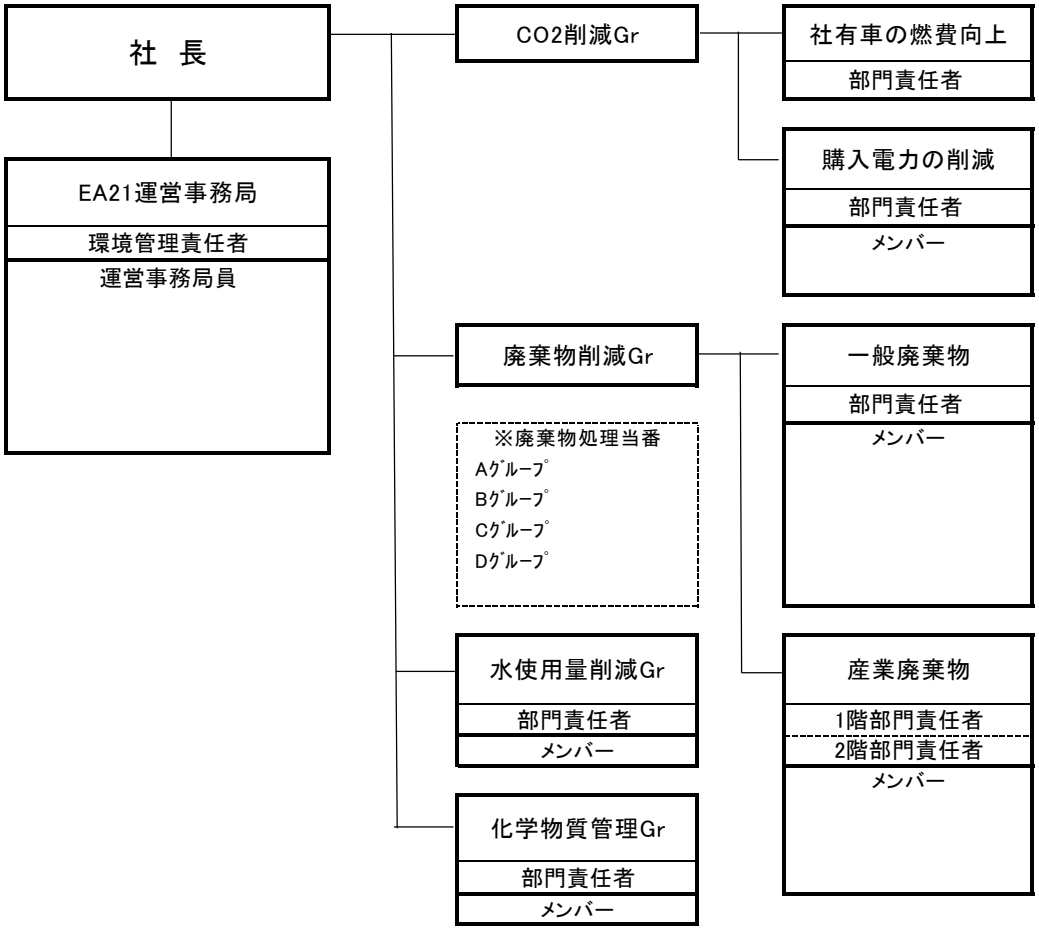
単位：Kg-CO2	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
CO2合計（ a+c+d ）	82,716								
CO2合計（ b+c+d ）	73,747	71,704	68,633	68,887	74,014				
a.購入電力（排出係数0.530）	63,382								
b.購入電力（排出係数0.455）	54,413	53,866	51,788	53,903	58,519				
c.ガソリン	12,254	9,760	8,901	9,243	10,633				
d.軽油	7,080	8,078	7,944	5,741	4,862				

※都市ガスを除く。



環境経営実施体制
及び責任権限表

星工業株式会社



責任と権限

・社 長	会社経営の総責任者であり、エコアクション21の最高責任者として、常に運営の状況を把握し環境管理責任者及び各部門の責任者を通じて、全従業員に対し環境経営方針を周知徹底し遵守させる権限を持つ。エコアクション21を運用し維持する為の経営資源を用意する。 また、経営における課題とチャンスの明確化を行う。
・環境管理責任者	エコアクション21に必要なプロセスを確立、実行、維持、改善をする義務を持つ。 社長にエコアクション21の運用状況を報告する。必要に応じて外部関係者と連絡調整を行う。 また、各部門の責任者に対して任務遂行の為の協力を要請する権限を持つ。
・各部門の責任者	環境活動計画書の目標を設定し管理・実行し、その達成度について報告する義務を持つ。 また、各部門の担当者に対して実行計画推進の為の協力を要請する権限を持つ。
・EA21運営事務局員	エコアクション21の運用について3ヶ月毎に見直しの討議を行い、改善事項を各グループの運用に反映させる役割を持つ。
・各部門のメンバー	各部門責任者の指示に従い、活動する。

2023年度環境経営目標及び中期目標

1. 年度は当年の6月から翌年5月迄です。
2. 活動期間は2023年6月から2027年5月までの4年間です。
3. 各管理項目についての基準値は、基本的に2022年度（2022年6月から2023年5月まで）の実績値です。
4. ただし、上記とは異なり基準値を設定した管理項目については、下記表に記載します。
5. 基準年の原単位は429M円です。
6. 基準値に対しての目標値等は下記表に記載します。
7. 化学物質使用量削減については、検討した結果、使用量を減らし製品の品質を下げる事が出来ない為、結果の記録とする。

管理項目			※基準値(2022年度実績)	2023年（通年） 2023年6月～2024年5月		2024年（通年） 2024年6月～2025年5月		2025年（通年） 2025年6月～2026年5月		2026年（通年） 2026年6月～2027年5月	
①二酸化炭素排出量削減	a.購入電力の削減　排出係数（東電2022年度値）：0.376	kWh/M円	299.8	−0.5%	298.3	−1.0%	296.8	−1.5%	295.3	−2.0%	293.8
	b.ガソリン使用車の燃費向上 ※基準値（過去3年間の一番低い値）	Km/L	12.11	0.25%	12.14	0.5%	12.17	0.75%	12.20	1.0%	12.23
	c.軽油使用車の燃費向上 ※基準値（過去3年間の一番低い値）	Km/L	8.65	0.25%	8.67	0.5%	8.69	0.75%	8.71	1.0%	8.74
	CO2排出実績（絶対値）（記録のみ）	Kg−CO2	74,160	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****
	CO2排出量の削減（売上高原単位値）	Kg−CO2/M円	172.9	−0.25%	172.5	−0.5%	172.00	−0.75%	171.60	−1.0%	171.2
②廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	kg/M円	3.11	−0.25%	3.10	−0.5%	3.09	−0.75%	3.08	−1.0%	3.07
	産業廃棄物の削減　（有価物を除く）原単位にて	kg/M円	4.10	現状維持	4.10	現状維持	4.10	現状維持	4.10	現状維持	4.10
	産業廃棄物の削減　（有価物を除く）総量にて	kg	1,740	現状維持	1,740	現状維持	1,740	現状維持	1,740	現状維持	1,740
③水使用量削減	水使用量の削減　※基準値（過去5年間の平均値）総量にて	m3	318.6	現状維持	318.6	現状維持	318.6	現状維持	318.6	現状維持	318.6
④化学物質使用量削減	PRTR法対象化学物質の使用量削減（結果記録のみ）総量にて	Kg	521.996	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****	結果記録	*****
⑤環境配慮の促進	自社製品開発時の省ｴﾈﾙｷﾞｰ・省資源ｱｲﾃﾞｱの具体化	設計図面変更件数	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月	現状維持	3件/6ヶ月
	環境美化活動の実施 【９回/年＝実施回数/計画回数】	回数	実施回数/計画回数	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回	実施回数/計画回数	9回/9回

⑧ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

[確認した環境関連法規]

・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
・相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例
・特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
・使用済自動車の再資源化等に関する法律施行令（自動車リサイクル法）
・自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車 Nox-PM 法)
・ディーゼル車規制（九都県市条例）
・神奈川県生活環境の保全等に関する条例（ディーゼル車運行規制関係条例）
・消防法
・相模原市火災予防条例
・有機溶剤中毒予防規則
・労働安全衛生法
・フロン排出抑制法

2023年6月23日　環境関連法規等の遵守状況管理一覧表をもとに遵守状況のチェックをした結果、取り決められたことが確実に守られていました。違反はありません。
また、訴訟も受けていません。

⑨ 代表者による全体評価と見直しの結果

[提出資料名]

・2022 年度 環境経営計画・実施状況・評価表
・2022 年度 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、
　並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画
・環境負荷自己チェックシート
・環境関連法規等の遵守状況管理一覧表
・2022 年度 環境美化活動計画表

[全体評価と見直し結果について]

・売上金額確定後の原単位に対する最終的な目標の達成状況については、
　購入電力使用量、水使用量削減の管理項目が目標未達成であった。
・その他の管理項目については、年度売上実績に対して目標を達成した。
・経済活動の低迷もあり原単位での産業廃棄物の排出量は大きく減った。
・引き続き自らが生産・販売・提供する製品については、省エネ設計を更に進める。
・EA21 の活動の趣旨と全社的な業務だと言う事を再度周知徹底する。
・目標未達成である購入電力使用量及び水使用量の管理項目については
　「2022 年度 環境経営計画・実施状況・評価表」の総評に記載があるように
　コロナ禍での感染防止対策で、2021 年度と同様に常時換気しながらエアコンを
　使用し通常の使用状況ではないと原因が明らかである。
　夏に受水槽の清掃で水を大量に使用した事が原因であり、売上が減っている中で
　原単位管理は無理があると思われるので、特に是正処置は必要なしと判断する。
　ただし、各自で節電や節水について再度認識をする事。
・次の中期目標の立案時には、原単位での管理を見直し、必要に応じて総量管理の
　検討を行い各管理項目の実情に合う形に調整する。
・また、新たな基準値と目標値の設定を行う事。